

生物介在療法学特論(一) (2単位)

担当者氏名 安藤元一・土田あさみ

◆学習・教育目標

動物介在療法・活動・教育(動物介在介入; Animal Assisted Intervention: AAI)の基本構造を学び、人と動物の関係における位置づけについて考える。最初に、介在動物、障がいについて、さらには教育についての基礎的知識を学ぶ。さらに、特に海外において実際に行われている動物介在療法に関する施設について紹介し、その実践内容を学び、日本における動物介在療法の展望を検討する。動物介在教育の領域では、実践するにあたり、学校教育における位置づけや課題を学び、動物介入の可能性について検討する。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

動物介在療法 動物介在教育 介在動物 動物介在の応用性
障がい 支援

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	動物介在療法学の基本構造(1)	ヒトと動物の関係学におけるAAI	AAIの位置づけと未来
2	動物介在療法学の基本構造(2)	動物介在療法と研究領域	AAI研究の基礎・応用
3	介在動物の特性とその選択	犬、馬などの各介在動物の特性を考え、対象に合わせた選択を考察する。	介在動物の特性からその有用性を理解する
4	子どもに対する動物の効果	子どもおよび高齢者の心理、身体的特徴と動物による心身への影響について理解する。	特に子どもへの効果
5	高齢者に対する動物の効果		特に高齢者への効果
6	障がい者の社会的支援制度(1)	障がい者の社会的な支援制度について理解し、適切な対応が出来るようにする。	動物がもたらす人の心身に対する健康効果の理解から、様々な疾病、障がいへの動物の適応について造詣を深める
7	障がい者の社会的支援制度(2)		
	動物介在療法の対象となる疾病・症状	動物介在療法の対象となりうる障がいや疾病・症状および禁忌について理解する	
8	介在動物の福祉および飼育管理とトレーニング	介在動物のトレーニング等、行動学的観点からその扱いと福祉について学ぶ。	介在動物の福祉的取り扱いについて理解を深める。
9	動物介在教育(1)	学校教育法を学ぶ	教育の位置づけを学ぶ
10	動物介在教育(2)	学習指導要領に組み込むAAE	
11	動物介在教育(3)	AAE実践の文献紹介(1)	教育分野におけるAAEの可能性を文献から学ぶ
12	動物介在教育(4)	AAE実践の文献紹介(2)	
13	動物介在教育(5)	AAEの課題について	AAEの展望を検討する
14	医療施設における動物介在プログラム	我が国・諸外国における医療機関等におけるAAIの実際。	AAIにおける医療・福祉の特色を理解し、我が国における将来的展望について検討する
15	総括		

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

特に指定しない。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

バイオセラピー学入門(講談社)ほか、授業の中で提示する

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート, 討論への参加度を通じて評価を行う。

◆その他受講上の注意事項

動物介在療法・活動・教育の実践に必要な、事前準備・実施・振り返りに注目して学んで欲しい。